

フロエベル、エデュケーションナル インステテユート

宇佐美ケイ

デモンストレーション男女小學校と幼稚園

この學校は前に記した、フロエベル インステテユート、トゥレーニング カレッヂと同じ系統の學校であり其の學生の實地練習をする學校であつて、幼稚園、小學校の教育研究の中心とされてゐる。幼稚園として研究的である點に於て、渡歐以來初めて出會つたものとして特に興味多く感じた一つである。

幼兒は満三歳から四歳までを幼稚園兒とし、四歳から六歳を中間級としてある點は先きに紹介した二三の幼稚園と同様である。今其の要目を摘記すると

幼稚園

自然研究（動物の飼育、植物の栽培）

感覺及び言語の練習。

遊戲、唱歌、律動遊戲。

手技。

中 間 級

自然研究

談話、(文學、歴史、地理の初歩としての)

遊戲、唱歌、律動遊戲。

讀方、書方、數と數字。

手技。

幼稚園も中間級も極めて自由で、時間割等も單にお話、唱歌、手技、遊戲、とわけてあつても必しも何時から何時までといふ事にせぬといつて居られた。

朝九時廿分に始まり幼稚園は十二時、中間級は十二時卅分に終る。(英國のお晝は午後一時か一時半を普通とする)

子供が活氣があり實によく集注して各自の仕事を靜かにしてゐる。中間級が晝中休日前の一つの大きい合同作業を今日終る所で、或兒童はまだ非常にいそがしくしてゐる。仕事の終つた子供は如何にも大人が自分の製作を觀賞する態度で數人その前に坐して切りに何か話をしてゐる。大體を記錄する事にする。

二つの部屋が續いて、大きい方の部屋の床の中央に汽車のレール(既製玩具)が置いてある、可なり大きいもので線路は其處から縦横に立つてゐる、ゼンマイ仕掛の汽車がその上を走る。トンネル、踏み切り、田舎の停車場、これらも皆既製玩具である。二三の男兒が切りに汽車を走らせてゐる。三方の壁

に添ふて、海岸、村落、森林、工場、牧場がある。壁にはそれらの遠景がゑがれた紙が張り廻してある。それには雑誌のゑのきりぬき、或は子供の描いた人物、畫などのきりぬきがはつてある。海岸は可なり大きい砂箱が置いてあつて、其處に厚紙でこしらへた小さな家が並んでおり、海岸の砂をしき、小さい介殻が散つてゐる。遠景は海原に續くところ、帆掛船や軍艦、汽船がきりぬいてはつてゐる。森林は鉢植を並べてある、緑の色紙で鉢をかくしてある所など子供らしい苦心が見えて嬉しい。遠景はやはり遠く森が續く。一人の女兒が水やりをしてゐた。村落には厚紙製のいくつかのコテージが所々置いてある。鶏小屋、牛舎がある。古いボール箱など利用してある。既製玩具も其中に加へてあるが如何にも調和よく配置してゐる。子供の工夫したもので面白いと思つた一つ二つ。

マツチの空箱を三つ位縦にならべ、その上にV形の畫洋紙の屋根を置きその上に麥稈を適當の長さに切つてはりつけたのなど實によく出来てゐる。或は瓶詰の箱などから出て来る切り口の浪形になつたやうなボール紙を適當な大きさにきつて屋根にしたところなど、日本のトタン屋根そっくりの感じがする。背景は山を見せた青空につゞく。蓋し此部が一番よく出来てゐたやうに思つた。牧場も中々よい。緑の紙を床にして、粘土でこしらへたものや玩具の家畜が遊んでゐる形、背景は青空と緑の牧場が廣がる。工場には煙突をたてた厚紙の家がたてゝある。木工で出来たトラック（工場の何倍もある大きさ）が走つてゐるところ。中央の停車場から各場所に通ずるといふわけでもみきりに大きいトラックが通りかゝつてゐる所など實に面白いと思つた。全部が兒童の考案であつて、先生の暗示のはいつてゐないところがよくわかつて實に愉快に感じた。尙仕事をつゞけてゐた子供も出来上つてほつとした態度で立ち上つ

たところで、先生が指圖されて床のごみなど小さい箒で子供がきれいにはきとり、線路の曲つてゐるところなどなほしさて十時半のお茶の時間に子供たちは學校のお姉様やお兄様をつれて來て説明しながら案内する、落ちついた満足な表情で。一人の女兒が私をも案内して一巡させてくれる。やがて其處をそのまゝにして小さい方の部屋に集り讀み方のお稽古が始まる。約十五分位、圓形を作つて掛けて短かい文章を畫に添えて書いた掛圖になつて興味多く教授された。

小さい組即ち幼稚園は獨立した小さい建物になつてゐる。接近はしてゐるが。十人位の少人數、おやつのはすんだところで二三人の子供が小さい箒と塵取を持つて掃除をしてゐる。それから皆假裝してドラマチカルプレーが始まる。二三のお母様も見えて我子に仕度をさせてゐる。中々の大仕掛である。其筋を一寸記すと二人の可愛い、男女兒（實は王子と王女である）が森の中でのしく歌ひながら遊んでゐる中に道に迷ひ、やがて勞れて泣きながらねて仕舞ふ。其處へ一人の天使が手に銀の鞭を持ち歌ひながら出て來て舞ふと兎、熊、羊などがひよこ〜と出て來て一緒に舞ふ。其處に二人のねてゐるのを見つけて、天使が鞭でさわると二人が起きる、そして一緒に踊るといふ極めて短かいもの。眠つてゐる筈の二人の子供が囁き合ふなど實に面白い。

その日の午後は隨意科の一つのダルグローズのリトミックがあつた。校長がリトミックに特に興味を持つて居られる、これによつて種々獨創力が養はれるといつて居られた。小學六年生の Musical Pantomime が面白い。先生の音楽に合せて各自の好むポーズを作る、そして其處に畫を表す。横倣と練習とに限られた普通の遊戲に見られぬ子供の満足感がうかゞはれる。小さい人たちも可なりむづ

かしい拍子をこなしでゐた。

モンテツツリー式ミス、グレバース幼稚園

ミス、グレバースのモン氏式の幼稚園は、私立の者として比較的上流の子供を收容する有名なる幼稚園である。モン氏式として純粹のものではないが、モン氏式の遊具のみを用ひてゐる。幼児は満三歳から六歳まで二十五人。部屋の四方に添ふてたゞんでたてかけてある軽い一人用の一人で持ち運びの出来るテーブルをめいめい靜かに自分で運んでたてゐる。更にたゞみ椅子をも運び自分の席を作る、如何にも靜かに。

自由選擇の遊びが始まる。皆モン氏の遊具を持つてゝ年長兒の二三は繪本のひろい讀みをしてゐる。無言で（此間聲を出すことをゆるさぬ）計へ方の練習をする子供もある。其教具はモン氏の者以外に此處の先生の工夫になるものもある。先生は其間指導を要する處へしばらく腰かけられる。或る子供たちは床上に自分でラッグを敷き文字の綴りをし、數の遊び（玉を一つから十までつないだもの）をしてゐる。年少兒がサンドペーパーのアルハベツトを指先きでなでゝあかす次から次と試みてゐる。先生が切りに指の運びを指導される。さわがしくはないが、相當話し聲が聞える。すると先生が沈黙サイレンスの札をかけると無言になる。可なりきびしい躑けである。十時におやつ、思ひ／＼のものを持つて來てゐる、果物が多い。先生は一人なので皮むきに中々いそがしい。ランチおやつのあと二三分眼を閉ぢそのあとで音をたてないやうに一人づゝピアノの傍に呼ばれる。ピアノに合せて簡單な動作をする。此日は特別に體操の先生が來られる日でそのあとで子供はテーブルを元の位置に片づけて其處で體操をする。先生は二人來られて、

一人はピアノを弾かれる。中々きびしく列を作り、ピアノに合せて體操をする。踊りではない、廿分間、氣をつけ、休め、の號令で日本の小學校の生徒のする様に極めて正確に運動をする、緊張して先生の號令のまゝに併も愉快氣に可なりむづかしい身體各部の運動をする様には感じ入つた。あとで先生は子供の柔順性を養ふ上に體育の上に此種の運動を最もよいと信ずるといつて居られた。一週二回試みてゐるといふ。十一時半頃からそろそろ迎への人が來られ、小さい方の部屋一ぱいになる、十二時にはすつかりかへる。

メリタス ストリート小學校

ロンドンにあるモン氏式幼稚園小學校として見るべきものとして紹介された他の一つが此學校である。年少級^{デユニヤ}は満五歳から九歳までモン氏式でその上は組制度で教授してゐる。徹底しては居らないが今日モン氏式は幼稚園から小學校の初年級だけ採用するのが多いやうである。モン氏の教育法の可否に就いて種々學者の説を異にしてゐるが其實際を見る時、感覺練習より始まり實に多種多様な併も整然たる系統の中に學理的に排列した教具によつて生徒各自が自學自習の方法で進み、併も各個人的である點に於て、注入的な一齊教授法によさる事萬々であると思つた。幼稚園に於ける此システムは今日可なりの議論があり、私も少くも幼児の活動を極限する點に於て全然此式による方法を取らない。しかし幼児の日常生活を保育の實際に取り入れる點に於て、其理論と實際の上にモン氏の教育法を指針とするものである。で完全に揃つたモン氏の教具を一そろい持ちたいものだと思つてゐる。

一人の女兒がミュージカルベルスを鳴らしながら音を調べて並べ何か唱歌の譜を讀みながらその鈴を

鳴らして樂を奏してゐた。自分はそれを見て最初の耳の練習に非常に効果のあるものではないかしらと思つた。子供が玩具の小さいオーガンなどの調律のあやしいものに耳を毒される事を常に心配して居るので。

三四五歳兒の遊びを觀たがその教具による遊びに就ては此處に略す。部屋の隅の手洗場の光景が實に興味あるものであつた。小さい手洗鉢の中に手を洗ふ水を滿たした水入がはいつてゐる。よごれた水をこぼすバケツが下に置いてあり、手拭と鉢拭と幼兒の手洗ひの時に掛けるエーブロンが二つ三つわきにかけてある。可愛い、四つ位の女兒が水入れの水を鉢に移して實にゆつくりと丁寧に手を洗ひ、水を捨て、鉢の中を拭ひ再び水入を鉢の中に入れておく、次の子も同様、水が水入に無くなると自分のすんだあとでいれておく。次の部屋を見ると一人が切りに手を洗つてゐると、一人男の子が其傍の椅子に腰かけていつまでも待つてゐる。驚くべき羨だと思ふ。英國の人の落ちつきと、がまん強さは此種の羨から來るのであらう。子供だからと先きを爭ふ不羨をゆるし、然も我勝ちに他を押しつけるのを元氣がよいなど、喜ぶ親の羨けでは、現在のバスや電車の乗り降りの光景は、大人になつてから言ひ聞かされた心得などでは、永久に改められぬであらう。

この小學校は日本の公立小學校ともいふべきもので英國では中産階級以下の兒童の學ぶところでデュニアだけでも數百人居る、右の羨けをうける子供は一組四十人もゐるのである。